

平成 29 年度
● 2017 ●
SYLLABUS
(講義概要)

別冊



京都ノートルダム女子大学

平成29 (2017) 年度入学者					
講義コード	講義名	コースナンバー	期間	頁	
共通教育科目					
GES1500N0J	ボランティア概論	1102-GES1500	後期	…	3
GBE1301K0J	英語総合 I K	1111-GBE1301	前期	…	2
GBE1351K0J	英語総合 II K	1111-GBE1351	後期	…	2
人間文化学部英語英文学科					
EGF1203N0J	専門講読 I d	2112-EGF1203	後期	…	1
人間文化学部人間文化学科					
CSA1204N1J	国際関係論	2222-CSA1204	後期	…	1
現代人間学部共通教育					
なし					
現代人間学部福祉生活デザイン学科					
SLB1100N0J	現代社会と福祉 I	N211-SLB1100	前期	…	3
SWA1250N1J	現代社会と福祉 II	N222-SWA1250	後期	…	4
現代人間学部心理学科					
SLB1100N0J	現代社会と福祉 I	N432-SLB1100	前期	…	3
SWA1250N1J	現代社会と福祉 II	N432-SWA1250	後期	…	4
現代人間学部こども教育学科					
SLB1100N0J	現代社会と福祉 I	N622-EDI2100	前期	…	3
SWA1250N1J	現代社会と福祉 II	N622-EDI2251	後期	…	4
教職・資格科目等					
なし					

平成28 (2016) 年度以前入学者					
講義コード	講義名	旧科目	期間	頁	
共通教育科目					
101835N0E	資格英語 I		集中	…	8
101836N0E	資格英語 II		集中	…	8
101837N0J	認定日本語		集中	…	9
GBE1301K0J	英語総合 I K	101163 英語総合 I	前期	…	2
GBE1351K0J	英語総合 II K	101164 英語総合 II	後期	…	2
101197A0E	英語応用 g (A)		前期	…	4
101200N0E	英語応用 j		後期	…	5
GES1500N0J	ボランティア概論	101523 ボランティア概論	後期	…	3
人間文化学部英語英文学科					
202033N0E	イングリッシュ・チャレンジ I		集中	…	9
202034N0E	イングリッシュ・チャレンジ II		集中	…	9
202080N1E	海外留学 I a		後期集中	…	10
202081N1E	海外留学 I b		前期集中	…	10
202082N1E	海外留学 II a		後期集中	…	10
202083N1E	海外留学 II b		前期集中	…	10
202084N1E	海外留学 III a		後期集中	…	10
202085N1E	海外留学 III b		前期集中	…	10
202086N1E	海外留学 III c		後期集中	…	10
202087N1E	海外留学 III d		前期集中	…	10
202088N1E	海外留学 III e		後期集中	…	11
202089N1E	海外留学 III f		前期集中	…	11
EGF1203N0J	専門講読 I d	203023 専門講読 I d	後期	…	1
205303N1J	応用言語学		後期	…	5
人間文化学部人間文化学科					
CSA1204N1J	国際関係論	224014 国際関係論	後期	…	1
生活福祉文化学部生活福祉文化学科					
SLB1100N0J	現代社会と福祉 I	244014 社会福祉原論 I	前期	…	3
SWA1250N1J	現代社会と福祉 II	248019 社会福祉原論 II	後期	…	4
244016N1J	社会保障論 I		前期	…	6
248030N1J	社会保障論 II		後期	…	6
心理学部心理学科					
なし					
教職・資格科目等					
901026N0J	情報資源組織演習 I		後期	…	7
901020N0J	図書館情報資源特論		集中	…	7
910004N0J	博物館資料論		前期	…	8

講義コード (Course Code)	CSA1204N1J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2222-CSA1204, 2000-224014
授 業 名 (Course Title)	国際関係論 国際社会の成立と国際交流の進展
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担 当 者 (Instructor)	北澤 義之
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1・2 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	全体を通じてのテキストはありません。資料のプリントを適宜配布します。
参考文献 (References)	『新版・国際政治学をつかむ』 村田晃嗣他 有斐閣 2015 『国際理解のために』 高橋和夫 放送大学教育振興会 2013 全体を通じての参考書は上の2冊だけです。 個別テーマごとに、教室で紹介いたします。
備 考 (Note)	隔年開講 2

1. 科目の教育目標 (Course Description)

1. 国際関係論の基礎的な用語を理解し使うことができる。2. 身近な問題が国際社会の動きと、どう結びついていることが理解できる。3. 自分たちの抱える問題を、どのように他の人達と(場合によっては国境を越えて)協力して解決できるか、その道筋を考えることができる。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

国際社会の発展についての基本的歴史を知ること。国際関係の基礎的な用語を使って、世界の現状について説明することができるようになること。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

講師が一方向的に受講生に対してレクチャーする方式ではなく、学生のグループ別のディスカッションも行う、アクティブ・ラーニングの方式をとります。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

下の具体的なテーマについて、講師による講義のあと、いくつかのグループに分かれてグループ学習をし、その成果を発表してもらいます。この他に、毎回、コメント・質問票に授業の終わるときに全員が提出します。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

2時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価の対象となるのは、(1) グループ学習のプレゼンテーション、(2) プレゼンテーションに対する質問・コメント、(3) 毎回提出するコメント・質問票です。

点数の配分は、発表30%、議論への参加30%、テーマに関するミニッツ・ペーパー(各人が毎回提出)40%です。

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 導入: 授業の進め方とイントロダクション 国際社会の現状
事前学習: 2017年の上半期で起きた最も重要な国際的事件を1つ探し、簡単に説明できるように情報をまとめる。

事後学習: 授業の進め方とルールを確認する。他の受講者が紹介したニュースについて傾向を把握する。

第2回 国際社会の成立と国際関係論

事前学習: 国際社会とは何か自分なりのイメージを説明できるように簡単にまとめる。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。国際社会と国際関係論の大まかな特徴を説明できるようにする。

第3回 国際政治の歴史(戦争を中心に)

事前学習: 第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の原因と特徴と影響について簡潔に説明できるようにする。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。それぞれの大きな戦争が国際社会の変化にどのような影響を及ぼしたか考える。

第4回 国際関係に対する見方(リアリズムとリベラリズムを中心に)

事前学習: 国際関係におけるリアリズム(現実主義)とは何かについて、概要を調べる。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。リアリズムとリベラリズムを対比して理解する。ネオ・リベラリズム、ネオ・リアリズムの考え方の背景を確認する。

第5回 グローバルな問題と国際社会

事前学習: 国際連盟と国際連合の類似点、相違点についてまとめる。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。世界が協力しないと解決しない問題には何があるのかを確認する。その中での国際機関の役割について確認する。

第6回 地域的統合と対立

事前学習: EU成立の背景について調べる。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。世界の地域的協力と対立について基本的な特徴を確認する。

第7回 現代世界と宗教

事前学習: イスラム教の影響下にある地域を調べ、イスラム教の基本的な特徴を確認しておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。近年の世界的なイスラムと政治への注目の背景を確認する

第8回 新しい政治アクターの登場について(NGO・NPO、MNCなど)

事前学習: 国家以外で国際社会に影響のある政治主体には何があるか調べる。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。NGOやNPOの国際関係における機能について確認する。

第9回 安全に関する国際協力(平和・紛争解決)について

事前学習: 第二次大戦後、国連が介入した紛争を調べておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。国連軍、PKOの活動の特徴と限界について確認する。

第10回 経済に関する国際協力(開発援助)

事前学習: 世界の貧困国と先進工業国家の経済力の違いの概要をまとめておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。貧困問題が国際社会に及ぼす影響について確認する。

第11回 経済に関する国際協力(開発援助)

事前学習: 代表的な難民問題を2つ調べ、その実態(実数、分布、背景)をまとめておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。難民問題と移民問題の現状を説明できるようにする。

第12回 テロ問題

事前学習: テロリズムの定義と歴史を簡単にまとめておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。現代社会におけるテロの背景と現状について確認する。

第13回 環境・資源問題

事前学習: 気候変動に関する京都議定書の内容と、2016年のCOPの内容と課題を整理しておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。世界の資源問題・環境問題を具体的にあげられるか確認する。

第14回 新しい協力と対立の可能性

事前学習: これまでに学習したこと以外に、国際社会で求められる協力には何があるか考えておく。

事後学習: 配布資料の内容の確認と復習をする。

第15回 まとめ

事前学習: 日本の世界とのかかわり方(援助、軍事協力)で何が近年問題になっているかを考えておく。

事後学習: これまで配布された資料の内容の確認と復習をする。国際社会の現状について振り返り、日本の課題を自分なりに指摘できるようにする。

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

授業テーマに関する準備が前提になるので、かならず準備して授業に臨むように心がけてください。また、新聞の国際記事のタイトルだけでも、見るように習慣づけてください。

講義コード (Course Code)	EGF1203NOJ
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2112-EGF1203, 2000-203023, 2000-205055
授 業 名 (Course Title)	専門講読 I d ポップカルチャー論入門
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担 当 者 (Instructor)	小林 順
単 位 数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『よくわかる翻訳通訳学』 鳥飼玖美子 編著 ミネルバ書房 2013
参考文献 (References)	
備 考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

ひとつの言語で表現された内容を別の言語に移し替えるプロセスにはどのような問題が含まれているのかを、理論面と実際面において考察し、翻訳・通訳という活動について理解を深める。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

以下について理解を深める。

1. 翻訳とはどのような活動であるか。
2. 翻訳の背景と周辺
3. 日英・英日間の翻訳作業の実際
4. 翻訳と文学

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

The Beatles の歌詞を中心に、受講生の担当・発表を交えて、毎回の授業を進めていく。適宜、The Beatles に関係した英語の著作も取り上げる。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

クラスの進む範囲を、受講生は予習して、同時に楽曲を聴いて、歌詞の日本語訳を考えてくる。また、学生は輪番でレポーターとなり、担当範囲の内容を紹介・説明し、クラスでの話し合いの話題を提供する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 14 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表担当等授業参加度：60%

期末レポート：40%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 本科目の内容、授業の方針等の説明。翻訳についてのイントロ
- 第2回 The Beatles のデビュー曲、Love Me Do 聴き取り。
- 第3回 Love Me Do の翻訳。同時に、1960年代初期のイギリスと日本について調べる。
- 第4回 デビュー第2作、Please Please Me 発売の経緯。
- 第5回 Me の鑑賞と訳詞。
- 第6回 デビュー第3作、From Me to You に見えるヒット曲作りの戦略。
- 第7回 From Me to You の鑑賞と訳詞。
- 第8回 復習を兼ねて、上記3曲に関するプレゼン。
- 第9回 第4作、She Loves You の鑑賞と訳詞。
- 第10回 350万枚のスーパーヒットの秘密。歌詞に秘められたヒットの戦略。
- 第11回 第5作、I Want to Hold your Hands の鑑賞と訳詞。
- 第12回 世界支配の武器としての楽曲、I Want to Hold your Hands の魅力解析。
- 第13回 第4作と第5作のグローバル戦略を読み解く。
- 第14回 初期のビートルズの歌詞は平易な言葉で若者の心を見事に表している。そのことを訳詞を振り返りながら検証する。
- 第15回 初期ビートルズ論をプレゼン。

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	GBE1301K0J
コースナンバー (Course Number)	1111-GBE1301, 1112-GBE1301, (科目読替 (Previous Course)を含む)
	1000-101152, 1000-101163
授業名 (Course Title)	英語総合 I K
N D 6 (Diploma Policy)	3: 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15
担当者 (Instructor)	真田 雅子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1 (前期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『マララ・ユスフザイ演説』マララ・ユスフザイ 朝日出版社 2014 『マララ・ユスフザイ国連演説&インタビュー集』(電子書籍版付き)
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 (英語英文学科以外) クラス指定

1. 科目の教育目標 (Course Description)

このクラスでは、母語に加えて、英語というもう一つの自分ことばを身につけることを目標としています。そのために、まず「聞く」ことから始め、その言葉をまねて「発音」し、声に出して読み、構造分析をします。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

自分の力で英語を聞き、英語を読み、自分の言いたいことが表現できるよ

うになること

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

授業では、グループ学習を行います。各自その日にやる個所を予習してきて、互いに疑問の解決に努めます。必ず英英辞書(紙の辞書、電子辞書など)を持参してください。携帯電話を利用した辞書はこの中には含まれません。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

その日にやる個所を何度も声を出して読んでくること。わからない点をはっきりさせてくること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度及び授業態度(予習・発表)(40%)、小テスト(20%)、英作文を含む提出課題(40%)の総合評価を行います。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション、
- 第2回 「言語」とは何か
- 第3回 p.26-29
- 第4回 p.30-33
- 第5回 p.34-37
- 第6回 p.38-41
- 第7回 p.42-45
- 第8回 p.46-49
- 第9回 p.50-53
- 第10回 p.54-55
- 第11回 Speech contest
- 第12回 Speech contest
- 第13回 Speech contest
- 第14回 Speech contest
- 第15回 前期まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

必ず授業には辞書を持参すること。携帯電話を利用した辞書は認めません。

講義コード (Course Code)	GBE1351K0J
コースナンバー (Course Number)	1111-GBE1351, 1112-GBE1351, (科目読替 (Previous Course)を含む)
	1000-101154, 1000-101164
授業名 (Course Title)	英語総合 II K
N D 6 (Diploma Policy)	3: 言語力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15
担当者 (Instructor)	真田 雅子
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『世界がもし100人の村だったら お金篇』池田香代子 マガジンハウス 2017 『世界がもし100人の村だったら お金篇』池田香代子/ダグラス・ラミス対訳 マガジンハウス 2017 978-4-8387-2902-9
参考文献 (References)	
備考 (Note)	必修 (英語英文学科以外) クラス指定

1. 科目の教育目標 (Course Description)

このクラスでは、英語を自分の言葉として、身につけることを目標としています。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

自分の言葉として、英語でコミュニケーションできるようになることを目的とします。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

授業では、クラスをグループに分け、グループ内での助け合いを通して、力をつけるようにします。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各クラスでやる予定の箇所を声を出して何回も読み、わからないところを明確にします。毎回用意された英語の問いに英語で答えを書いて提出します。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度及び授業態度（予習・発表）（40%）、小テスト（20%）、英作文を含む提出課題（40%）の総合評価を行います。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション、
- 第2回 p.4-9
- 第3回 p.10-19
- 第4回 p.20-27
- 第5回 p.28-31
- 第6回 p.32-37
- 第7回 p.38-43
- 第8回 p.44-51
- 第9回 p.52-61
- 第10回 p.62-71
- 第11回 p.73-75
- 第12回 English summary of Ohno Yoko's comment
- 第13回 English summary of Miwa Yoshiko's comment
- 第14回 English summary of Uemura Takehiko's comment
- 第15回 Speech Contest

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

必ず授業には辞書を持参すること。携帯電話を利用した辞書は認めません。

講義コード (Course Code)	GES1500NJ
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	1102-GES1500, 1000-101523
授業名 (Course Title)	ボランティア概論 「参加」と「共に生きる」を考える
N D 6 (Diploma Policy)	5: 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	志藤 修史
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	講義中に資料を配布する。
参考文献 (References)	『ボランティアという病』 丸山千夏 宝島新書 2016 『地域福祉の今を学ぶ』 妻鹿ふみ子 ミネルヴァ書房 2010
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

社会にとってボランティアはどのような意味があるのでしょうか。なぜ、ボランティアをする人がいるのでしょうか。

この講義ではボランティアの実際を見る中で、ボランティアとボランティアをめぐる私たちの社会との関係について基本的な内容を理解することを狙いとしています。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. ボランティアの理念とは何かを理解する。
2. 共に生きる心を理解する。
3. ボランティア活動の多様性を知る。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業方法
講義形式とする。
2. 学習方法
 - (1) 現実に起こっていることを予断なく受け止める。
 - (2) 講義内容を知識として留めるだけでなく、活動に参加してみようと考えてみる。
3. 参考文献
参考文献もなるべく目を通し、自分自身の意見をまとめておくこと。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ① 配布した資料を事前に読み、理解しておくこと。
- ② 日頃から社会の様々な出来事に関心を持つこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
30 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は事業参加度 (50%)、レポート (40%)、クラス・レスポンス (10%) に基づいて行う。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ボランティアをめぐる言葉
- 第3回 ボランティアとは何か

- 第4回 ボランティアの現実 (福祉ボランティア 1)
- 第5回 ボランティアの現実 (福祉ボランティア 2)
- 第6回 ボランティアと地域社会との関わり
- 第7回 災害とボランティア 1
- 第8回 災害とボランティア 2
- 第9回 ボランティアの基本原則を問う
- 第10回 ボランティアの支援とコーディネート
- 第11回 ボランティアとケア
- 第12回 ボランティアの活動内容にある隘路
- 第13回 社会とボランティア
- 第14回 暮らしとボランティア
- 第15回 まとめとふりかえり

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	SLB1100NJ
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	N211-SLB1100, N432-SLB1100, 2000-244014, N622-EDI2100
授業名 (Course Title)	現代社会と福祉 I 現代社会と福祉 I
N D 6 (Diploma Policy)	1: 自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	室田 保夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 (前期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	特になし。プリントを配布する。
参考文献 (References)	『日本社会福祉の歴史 改訂版』 室田保夫・菊池正治他編 ミネルヴァ書房 2014 『人物でよむ日本社会福祉のあゆみ』 室田保夫編 ミネルヴァ書房 2006 『人物でよむ社会福祉の思想と理論』 室田保夫編 ミネルヴァ書房 2010 『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』 室田保夫編 ミネルヴァ書房 2013
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

社会福祉に関する基本的な考え方を学ぶ。そのために社会福祉の歴史や思想・哲学・価値といった基本的な事項を学び、現代社会にとって社会福祉の必要性を理解する。

現代社会に於ける基本的な福祉課題の理解を目標とする。社会福祉の原論的な位置づけと社会福祉学についての入門的な性格も持っている。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

現代に於ける内外の社会福祉を理解するために、その歴史的展開を学び、今日に至った経緯を理解する。社会に於ける福祉政策やサービスが展開されていく基礎を理解する。福祉はしばしば実践といわれるが、その実践の思想や哲学を学ぶ。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じてグループ討議も行う。プリントを配付する

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義の終了時に次回のことについてふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
1・2 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (15%)、小テスト (15%)、定期試験 (70%) とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 本講義のオリエンテーション
- 第2回 現代社会とは何か、社会問題と生活問題
- 第3回 福祉とは、社会福祉とは何か—その範囲と視点、学ぶ方法
- 第4回 西洋の福祉の歴史 (1) —イギリスを中心に
- 第5回 西洋の福祉の歴史 (2) —アメリカを中心に
- 第6回 日本の福祉の歴史 (1) —前近代、明治前期を中心に
- 第7回 日本の福祉の歴史 (2) —明治後期を中心に
- 第8回 日本の福祉の歴史 (3) —大正期を中心に
- 第9回 現代社会と社会福祉 (1) —昭和期を中心に
- 第10回 現代社会と社会福祉 (2) —戦後を中心に
- 第11回 福祉の思想と哲学 (1) —留岡幸助と石井十次の思想と哲学

- 第12回 福祉の思想と哲学 (2) 一山室軍平と井深八重を中心に
 第13回 福祉の思想と哲学 (3) 一岩橋武夫と糸賀一雄を中心に
 第14回 福祉の思想と哲学—ヘレン・ケラーとマザー・テレサを中心に
 第15回 まとめ—今後の社会福祉の課題

6. 定期試験 (Final Exam)

あり なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

講義コード (Course Code)	SWA1250N1J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	N222-SWA1250, N432-SWA1250, 2000-248019, N622-ED12251
授業名 (Course Title)	現代社会と福祉Ⅱ 現代社会と福祉Ⅱ
N D 6 (Diploma Policy)	2: 知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	室田 保夫
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	1 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	特になし。毎回、プリントを配布する。
参考文献 (References)	『日本社会福祉の歴史 改訂版』 室田保夫・菊池正治他編 ミネルヴァ書房 2014 『人物でよむ日本社会福祉のあゆみ』 室田保夫編 ミネルヴァ書房 2006 『人物でよむ社会福祉の思想と理論』 室田保夫編 ミネルヴァ書房 2010 『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』 室田保夫編 ミネルヴァ書房 2013
備考 (Note)	「現代社会と福祉Ⅰ」を履修していることが望ましい

1. 科目の教育目標 (Course Description)

「現代社会と福祉Ⅰ」で基本的な福祉と社会福祉に関する理解を踏まえて、この講義は社会福祉の主な理論や各領域での政策を学ぶ。そして福祉ニーズと資源、主な社会福祉領域についての理解、ソーシャルワークの基本的な働きや相談援助活動を学ぶ。この講義をとらえて専門科目理解の基礎を確立する。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

社会福祉学についての主だった理論を学ぶ、社会福祉の各領域についての政策や支援方法等について学ぶ。ソーシャルワークの基本的な役割と方法について学ぶ

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じてグループ討議も行う。プリントの配付。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義の終わりに次回のこともふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

1・2時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (15%)、小テスト (15%)、定期試験 (70%) とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 本講義のオリエンテーション
 第2回 社会福祉学とは何か
 第3回 社会福祉理論 (1) —孝橋理論を中心に
 第4回 社会福祉理論 (2) —岡村理論を中心に
 第5回 社会福祉理論 (3) —嶋田理論と現代の主な理論を中心に
 第6回 社会福祉の法と政策
 第7回 ニーズと資源
 第8回 児童の福祉
 第9回 高齢者の福祉
 第10回 障害者の福祉
 第11回 地域の福祉
 第12回 ソーシャルワークの基礎
 第13回 ソーシャルワークの機能と援助活動
 第14回 現代の課題—貧困問題と福祉
 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

あり なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義の都合上、シラバスを一部変更する場合もある。

講義コード (Course Code)	101197A0E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	1000-101197
授業名 (Course Title)	英語応用 g (A) Extensive Reading
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15
担当者 (Instructor)	小林 順
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1234 (前期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	Graded Readers (図書館 2 階閲覧室 Readers コーナーに置いています。)
参考文献 (References)	
備考 (Note)	定員 50 人

1. 科目の教育目標 (Course Description)

このコースの目的は、英語を多読 (extensive reading) することによって、英語の学力を全体的にのぼし、英語学習を楽しむことです。受講生は、多くの英語文献 (平易で楽しめる教材) を読むことによって、だんだんと辞書に頼らずに早く読めるようになるでしょう。このクラスの受講生は English graded readers の教材を図書館から借りることができます。それらの教材の中で興味のあるものを選び、選んだ本について他の受講生と話し合う機会を持ちます。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will become better readers, increase their knowledge of vocabulary, improve their listening and speaking skills, and experience increased motivation to learn English.

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will have time in class for sustained silent reading. Additionally, students will work together to discuss the books they

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading at least one book per week and preparing short presentations.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

Weekly reading assignments: 50%

Presentations: 30%

Participation in group discussions: 20%

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 Introduction to Extensive Reading and BBC portal site
 第2回 Reading of one article on News pages of BBC website
 第3回 Summary of the news you read the previous week
 第4回 Pick and sum up any news that you find interesting
 第5回 Presentaion of the news article that you read previous week
 第6回 Choose any field of news, for example, "Health", "Technology" or any other and find one article
 第7回 Summary of the news you picked up previous week
 第8回 Browse other news sites and find the articles of the same theme and/or topic that you picked up previous week
 第9回 Presentation of your theme and/or topic
 第10回 Write about your daily life and make it kind of news article
 第11回 Let's translate your English article into Japanese
 第12回 Presentation of your new article
 第13回 Bring a Japanese news article and find an article in English treating the same topic
 第14回 Compare the two articles and find differences between the two articles
 第15回 Talk about BBC website and find how huge its size is

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

An English-English dictionary is highly recommended.

Read as many articles as you can every day.

The class schedule is subject to change.

講義コード (Course Code)	101200NOE
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	1000-101200
授業名 (Course Title)	英語応用 j English for Academic Purposes
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15
担当者 (Instructor)	小林 順
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	1234 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking 1A』 Mari Vargo and Laurie Blass Cengage 2013
参考文献 (References)	
備考 (Note)	アカデミックイングリッシュ

1. 科目の教育目標 (Course Description)

このクラスの教育目標はきわめて現実的である。リーディング・ライティングを中心にアカデミックなスキルを鍛錬します。興味深いトピックを通して、リーディングスキルやクリティカル・シンキングスキルを習得。そこで理解した内容をもって、プロセスライティングへとつなげます。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

Students will acquire essential reading, writing, speaking, and discussion skills for academic purposes. They will also gain greater confidence in effectively expressing their ideas and opinions in English.

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

Classes will be conducted entirely in English. In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups.

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to complete all homework assignments before class. Homework will consist of reading, preparing for discussion, and writing.

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

30% Class Participation and Discussion

35% Reading Assignments

35% Writing Assignments

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 Introduction

Skimming for gist

Guessing meaning from context

第2回 Reading interviews

第3回 Understanding the writing process

Writing sentences about a single topic

第4回 Understanding the main ideas of paragraphs

Making inferences

第5回 Understanding news reports

第6回 Planning your writing

Writing sentences about goals

第7回 Finding the right meaning

Identifying fact and speculation

第8回 Synthesizing map and textual information

第9回 Expressing speculation

Writing descriptive sentences about family

第10回 Finding supporting ideas

Analyzing causes and effects

第11回 Understanding a multimodal text

第12回 Using details to clarify ideas

Writing sentences to make suggestions

第13回 Scanning for key details

Reflecting critically

第14回 Identifying pros and cons in a passage

第15回 Using synonyms to avoid repetition

Writing sentences to express an opinion

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	205303N1J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-205303, 2000-205301
授業名 (Course Title)	応用言語学 社会言語学と英語教育
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	沖原 勝昭
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	234 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『よくわかる社会言語学』 田中春美・田中幸子編著 ミネルバ書房 2015
参考文献 (References)	『英語科教育のフロンティア』 青木昭六 編著 保育出版社 2012 『英語教育政策』 矢野安剛ほか 大修館書店 2011 『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics (4th Ed.)』 Richards, J.C. & R. Schmidt (eds.) Longman 2010
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

社会言語学的な観点から、世界中に拡散している現代英語の使用状況を踏まえて、英語教育理論への貢献や日本の学校で英語を学ぶことの意味を考える。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

本授業では、社会言語学の諸領域を鳥瞰するとともに、以下の諸点についての理解を深める。

- ・世界中で使用される英語
- ・ことばを通じた相互行為
- ・文化のコンテクスト
- ・言語の変異
- ・二言語併用

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

本授業は、指定したテキストの講義を中心として進める。はじめに、教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生はテーマ毎に分担し、テキストの要約を発表し、全員で討議する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定テキストの範囲や課題について、教員が予告指示したことに対して、受講生は全員予習したことをノートにまとめて提出する(宿題ノート)とともに、特定のテーマについて担当を決めて、輪番で発表する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
28 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

宿題ノートと発表担当などの平常点 (60%)、期末レポート課題 (40%)

5. 授業予定 (Course Schedule)

第1回 イントロ (授業方針の説明など)

応用言語学と社会言語学

の背景

第2回 二言語使用・多言語使用

第3回 地域方言・社会方言

第4回 言語変異と言語変化

第5回 言語使用域

第6回 話しことばと書きことば

第7回 世界各地の英語

第8回 母語話者英語の多様性

第9回 第二言語・公用語としての英語

第10回 外国語としての英語

第11回 言語帝国主義

第12回 言語教育政策

第13回 言語能力と言語教育

第14回 母語習得と第二言語習得

第15回 言語と文化: まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	244016N1J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-244016
授業名 (Course Title)	社会保障論 I
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	小池 桂
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	23 (前期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『わかる・みえる社会保障論』 今井伸編 みらい 2016
参考文献 (References)	『よくわかる社会保障』 坂口正之、岡田 忠克編 ミネルヴァ書房 最新版 『脱貧困の社会保障』 唐鎌直義 旬報社 2012 『ベヴァリッジ報告』 一圓光彌監訳 法律文化社 2014 『雇用身分社会』 森岡孝二 岩波新書 2015
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	248030N1J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-248030
授業名 (Course Title)	社会保障論 II
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	小池 桂
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	23 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『わかる・みえる社会保障論』 今井伸編 みらい 2016
参考文献 (References)	『よくわかる社会保障』 坂口正之、岡田 忠克編 ミネルヴァ書房 最新版 『自分たちで生命を守った村』 菊池武雄 岩波新書 1968 『国民皆保険の時代』 新村拓 法政大学出版会 2011 『脱貧困の社会保障』 唐鎌直義 旬報社 2012
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

20 世紀以降、社会保障制度は人々の生活に欠かせないものとなった。社会保障論 I では現代社会における社会保障制度の存在意義、理念、歴史など社会保障の基礎を学ぶ。

- ①現代社会における社会保障制度の課題を理解できる。
- ②社会保障の概念、対象、理念、展開過程を理解できる。
- ③社会保障制度の概要について理解できる。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①少子高齢化社会における社会保障制度の課題を理解する。
- ②社会保障の概念、対象、理念を理解する。
- ③社会保障の展開過程を理解する。
- ④社会保障の財源と費用を理解する。
- ⑤社会保険と社会扶助の関係を理解する。
- ⑥医療保険制度の概要を理解する

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

講義を中心に進めるが、適宜、DVD 等も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ①予習、復習を欠かさないこと
- ②授業では積極的に発言すること
- ③社会保障に関する新聞記事には目を通しておくこと (どのような領域でもよい)

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (10 点)、小テスト (20 点)、定期試験 (70 点) とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第 1 回 本講義の概要とねらい
- 第 2 回 現代社会における社会保障の課題
- 第 3 回 欧米における社会保障の歴史
- 第 4 回 日本における社会保障の歴史①～戦前の展開～
- 第 5 回 日本における社会保障の歴史②～戦後の展開～
- 第 6 回 社会保障の概念と機能
- 第 7 回 社会保障の理念
- 第 8 回 小テスト
- 第 9 回 社会保障の費用と財政
- 第 10 回 国民負担率とその課題
- 第 11 回 社会保険の概念と制度
- 第 12 回 社会扶助の概念と制度
- 第 13 回 医療保険制度の歩みと概要
- 第 14 回 医療保険の仕組み
- 第 15 回 後期高齢者医療制度の概要

6. 定期試験 (Final Exam)

あり なし

7. 留意事項 (Other Information)

1. 科目の教育目標 (Course Description)

本講義では社会保障の各制度を具体的事例を交えながら学ぶとともに、それらの課題について考える。

- ①社会保障制度の体系を理解できる。
- ②医療保険を除く各種社会保険の具体的内容を理解できる。
- ③諸外国の社会保障制度の概要を理解できる。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①複雑に入り組んでいる日本の社会保障制度を体系立てて理解する。
- ②医療保険を除く各種社会保険について新聞記事、事例などを交えながら学ぶ。
- ③欧米を中心とした社会保障制度を、日本の社会保障制度と比較しながら概観する。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

講義を中心に進めるが、適宜、DVD 等も取り入れていく。また重要なテーマについてはディスカッションも行う。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ①予習、復習を欠かさないこと。
 - ②授業では積極的に発言すること。
 - ③社会保障 (特に社会保険) に関する新聞記事には目を通しておくこと。
- ・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
- 60 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (10 点)、小テスト (20 点)、定期試験 (70 点) とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第 1 回 本講義の概要とねらい
- 第 2 回 雇用保険制度の歩みと概要
- 第 3 回 労働者災害補償保険制度の仕組み
- 第 4 回 労働者災害補償保険の実際
- 第 5 回 年金保険制度の歩み
- 第 6 回 年金保険制度の概要
- 第 7 回 年金保険制度の仕組み
- 第 8 回 小テスト
- 第 9 回 介護保険制度の概要
- 第 10 回 生活保護制度の歩みと概要
- 第 11 回 生活保護制度の仕組み
- 第 12 回 社会手当制度の歩みと概要
- 第 13 回 社会福祉制度の歩みと概要
- 第 14 回 諸外国における社会保障制度①～福祉国家の類型論～
- 第 15 回 諸外国における社会保障制度②～欧米福祉国家の沿革と現状～

6. 定期試験 (Final Exam)

あり なし

7. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	901020N0J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	5000-901020
授業名 (Course Title)	図書館情報資源特論 京都の情報資源を知る
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30
担当者 (Instructor)	福島 幸宏
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	234 (集中)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	『京都府の歴史』朝尾直弘他 山川出版社 2011 『京都府の百年』井ヶ田良治・原田久美子編 山川出版社 1993 その他は授業の中で紹介する
備考 (Note)	必修 半年の半分

1. 科目の教育目標 (Course Description)

図書館情報資源のうちの「地域資料 (郷土資料)」をとりあげ、地元である京都の情報資源について理解を深めていく。

具体的には、選択したテーマに関する代表的な情報資源を探査し、パスファインダー (特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内) としてまとめることで、さまざまな京都関係資料を使いこなす体験をする。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- 書籍、雑誌、地域資料、古典籍や古地図、データベース、ウェブサイトなど情報資源の形態と特徴を知る。
- 京都関係の文献目録や辞典、年表、データベース、ウェブサイトなどの参考資料、情報源を使いこなせるようにする。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

選択したテーマについて、グループもしくは個人で京都関連の資料を調べ、パスファインダー (特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内) を作成し発表する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

パスファインダー (特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内) を作成する為に必要な資料資源を探査、収集する。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

作成したパスファインダー (特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内) の内容 (選択した資料の適切度、網羅度、構成など) と、授業への参加度によって評価する。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 授業の進め方
作成テーマの紹介: 地域・寺社・芸術・芸能・衣食住など
- 第2回 京都に関する情報資源とは? 1
- 第3回 京都に関する情報資源とは? 2
- 第4回 パスファインダーと発表準備 (テーマの探求、決定)
- 第5回 発表準備 (情報資源の探索)
- 第6回 発表準備 (パスファインダーの完成)
- 第7回 テーマについての発表とコメント
- 第8回 授業全体のまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

5～8回は図書館ラーニングコモンズで行うことを予定している。

講義コード (Course Code)	901026N0J
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	5000-901026
授業名 (Course Title)	情報資源組織演習 I
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	設楽 馨
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	234 (後期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』日本図書館研究会 2015
参考文献 (References)	『情報資源組織論』田窪直規 樹村房 2016 『情報資源組織演習』小西和信 樹村房 2013 『情報資源組織演習』J L A 2016 『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会 2006 (貸出)
備考 (Note)	定員 46 人 必修 「図書館概論」「情報資源組織論」履修者であること

1. 科目の教育目標 (Course Description)

<ねらい> 「情報資源組織論」において学習した、記述目録法の内容について、更に理解を深めるため、実際の目録作成を行う。<到達目標> ①書誌作成のルールが理解できる。②書誌ユーティリティ環境下で、目録作成することの意義、ルール、方法、などの実際が理解できる。③ネットワーク情報資源のメタデータを作成できる。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

情報資源組織演習 (目録) では、書誌ユーティリティを活用した書誌レコードの作成 (和図書、洋図書、雑誌)、所蔵データの作成等を行う。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

情報資源組織演習 (目録) では、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、書誌データベース構築を演習する。多くの演習問題を通じて、実践的能力を獲得する。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

「情報資源組織論」で学習した内容をよく復習しておくこと。特に、目録規則の部分と書誌ユーティリティの考え方を抑える。とくに NACIS-CAT のファイル構成について、読んでおく。専門書でも小説でも、自身が読んだ本については OPAC で書誌情報を確認し、本の実物とメタ情報とを確認すること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
10 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

- 目録 (書誌レコード) 作成について、
1. 演習課題またはレポート提出 20%
 2. 授業参加度 20%
 3. 理解度テスト 60%
- で合算して最終的評価とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 科目概要の確認、目録作成の基礎
- 第2回 書誌ユーティリティの基礎、和図書目録作成の実際 (1) 記述に関する総則
- 第3回 和図書目録作成の実際 (2) タイトルと責任表示
- 第4回 和図書目録作成の実際 (3) 出版・頒布等、形態
- 第5回 和図書目録作成の実際 (4) シリーズ、注記、標準番号等
- 第6回 継続資料の目録作成の実際 (1) 逐次刊行物
- 第7回 継続資料の目録作成の実際 (2) 加除式資料
- 第8回 洋図書目録作成の実際 (1) AACR2
- 第9回 洋図書目録作成の実際 (2) RDA
- 第10回 著者名典拠コントロールの実際 (1) 標目の統一
- 第11回 著者名典拠コントロールの実際 (2) 典拠ファイル
- 第12回 著者名典拠コントロールの実際 (3) 典拠レコード
- 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際
- 第14回 総復習
- 第15回 理解度テストとまとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

目録演習では、コンピュータを使用するため、マウスやキーボードの操作、かな漢字変換などは事前に習得しておくことが望ましい。また、各自の演習データ保存用に、USB メモリーを毎回必ず持参すること。USB を

持参しない場合は大学のサーバに割り当てられる個人用ファイルへの保存方法・取り出し方法を確認しておくこと。

講義コード (Course Code)	910004NOJ
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	6000-910004
授業名 (Course Title)	博物館資料論 博物館資料についての理解
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	兼清 順子
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	234 (前期)
前提科目 (Prerequisite)	
テキスト (Textbook)	
参考文献 (References)	授業中に適宜紹介する。
備考 (Note)	必修

1. 科目の教育目標 (Course Description)

博物館を他の社会教育施設や研究書等と区別する指標は、博物館資料の存在である。博物館におけるさまざまな活動は、博物館資料なしには成り立たない。そして、博物館資料の取り扱い、学芸員の最も基本的な業務である。そのため、博物館資料とは何かといったことから、どのように収集、整理、保管、展示するのか、その活用に至るまでを学習する。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 博物館資料の種類と分類に関する視点を理解する。
2. 資料の収集・保管について理解する。
3. 資料の調査・研究について理解する。
4. 資料の展示・公開について理解する。
5. 資料を取り巻く多様な課題について考察する。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業方法

*必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2. テキスト・参考資料

*テキストは使用しない。

*参考文献については必要に応じて紹介する。

3. その他

*他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

*博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義が中心であるが、履修者の積極的な発言を求め、博物館や美術館に足を運び、展覧会および博物館施設の諸活動を現場で観察する機会を多く持つように心がけること。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
20 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (態度、発言、感想、授業内での作業、授業内での小テスト) とレポートにより総合的に行う。評価基準は、平常点 60%、まとめのレポート 40% とする。

5. 授業予定 (Course Schedule)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 博物館資料の意義と種類
- 第3回 資料の収集の方法 (採集、購入、寄託、寄贈、交換など)
- 第4回 資料の収集の手続き (寄託、寄贈、交換)
- 第5回 資料の保管 (受け入れ時の対応)
- 第6回 資料の保管 (調書の作成)
- 第7回 資料の保管 (資料の管理)
- 第8回 資料の公開 (台帳とデータベース)
- 第9回 資料の公開 (公開における課題)
- 第10回 資料の利用 (研究と展示)
- 第11回 資料の利用 (利用の促進)
- 第12回 コレクションの育成
- 第13回 博物館資料に関わる法律
- 第14回 利用者の視点と博物館の視点
- 第15回 まとめ

6. 定期試験 (Final Exam)

なし

7. 留意事項 (Other Information)

フィールドワークとして施設見学を行う場合、各自入館料を必要とする。

講義コード (Course Code)	101835NOE
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	
授業名 (Course Title)	資格英語 I
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	—
担当者 (Instructor)	東郷 多津
単位数 (Credits)	
配当学年 (Eligible Year)	1234
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	英語英文学科生は履修できない

1. 科目の教育目標 (Course Description)

英語は実質的に「世界共通語」の役割をもつようになって来ている。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっている。

本学ではすべての学生がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるように強く期待し、一方で様々な面で指導體制の充実を図っている。「資格英語 I」及び「資格英語 II」は、学生の英語運用能力の育成を目指して配置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度である。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

英語の標準テストで現状よりも高い成果をあげる。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

各自に合った方法を見いだすよう日頃から心がける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

長期的観点からの英語力向上のための学習方略を編み出すとともに、TOEIC などの標準テストについて過去問を研究し、回答方法に慣れるなど、短期的な戦術の向上も図る。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

単位認定のために求められる成果の基準は以下の通り。

TOEIC 500 点以上 600 点未満 (TOEIC-IP 含む) の場合は「資格英語 I」のみ、TOEIC 600 点以上 (TOEIC-IP 含む) 又は実用英語検定 準 1 級以上の場合は「資格英語 I」及び「資格英語 II」の単位が認定される。

単位認定を希望する者は、単位認定申請書 (教務委員会様式) 及び TOEIC の成績通知書の原本 (受験した日から 3 年以内のもの) を教務課へ提出すること。

提出期日: 単位認定を希望する学期の授業最終日

5. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	101836NOE
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	
授業名 (Course Title)	資格英語 II
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	—
担当者 (Instructor)	東郷 多津
単位数 (Credits)	
配当学年 (Eligible Year)	1234
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	英語英文学科生は履修できない

1. 科目の教育目標 (Course Description)

英語は実質的に「世界共通語」の役割をもつようになって来ている。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっている。本学ではすべての学生がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるように強く期待し、一方で様々な面で指導體制の充実を図っている。「資格英語 I」及び「資格英語 II」は、学生の英語運用能力の育成を目指して配置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度である。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

英語の標準テストで自分の目指す目標レベルを設定し、それを達成するための戦略を練る。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

各自に合った方法を見いだすよう日頃から心がける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

長期的観点からの英語力向上のための学習方略を編み出すとともに、TOEIC などの標準テストについて過去問を研究し、回答方法に慣れるなど、短期的な戦術の向上も図る。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

単位認定のために求められる成果の基準は以下の通り。

TOEIC 500 点以上 600 点未満 (TOEIC-IP 含む) の場合は「資格英語 I」のみ、TOEIC 600 点以上 (TOEIC-IP 含む) 又は実用英語検定 準 1 級以上の場合は「資格英語 I」及び「資格英語 II」の単位が認定される。

単位認定を希望する者は、単位認定申請書 (教務委員会様式) 及び該当する検定試験の成績通知書の原本 (受験した日から 3 年以内のもの) を教務課へ提出すること。

提出期日: 単位認定を希望する学期の授業最終日

5. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	101837NOJ
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	
授業名 (Course Title)	認定日本語 日本語検定 3 級～2 級合格をめざして
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	—
担当者 (Instructor)	堀 勝博
単位数 (Credits)	
配当学年 (Eligible Year)	1234
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

言語力の育成が社会的要請として重視されるなか、大学生として一定の国語力を習得することは、きわめて重要な学習課題である。この科目は、本学学生が国語力を向上させるために自主的・積極的に学習を積み重ね、かつその成果として資格が取得できるように、「日本語検定試験」合格を単位として認定するものである。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

社会人として必要な、漢字の読み書き、語彙、敬語表現、文章読解等、国語に関する能力を総合的に習得する。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

各自、公式テキスト等で日本語検定試験の過去問題や練習問題にとりくみ、自学自習を重ね、6 月もしくは 11 月に実施される日本語検定を受検する。3 級以上の合格認定を受けた者に、単位を与える。合格後 3 年以内に申請すること。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

以下の文献により、各自学習を進めること。

- 東京書籍『日本語検定 公式練習問題集 2 級』 1,000 円
- 東京書籍『日本語検定 公式練習問題集 3 級』 900 円
- 東京書籍『日本語検定 公式 2 級 過去問題集』 1,000 円
- 東京書籍『日本語検定 公式 3 級 過去問題集』 900 円
- 東京書籍『公式領域別問題集 敬語』 1,200 円
- 東京書籍『公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』 1,200 円
- 東京書籍『公式領域別問題集 文法』 1,200 円
- 東京書籍『公式領域別問題集 漢字・表記』 1,200 円
- 東京書籍『日本語検定必勝単語帳 入門編』 1,050 円
- 東京書籍『日本語検定必勝単語帳 応用編』 1,050 円
- 東京書籍『日本語検定公式テキスト 日本語上級』 1,575 円
- 東京書籍『日本語検定公式テキスト 日本語中級』 1,470 円

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

単位認定のために求められる成果の基準は以下のとおり。

日本語検定試験: 3 級以上

単位認定を希望する者は、単位認定申請書 (教務委員会様式) 及び NPO 法人日本語検定委員会が実施する日本語検定試験個人カルテ及び認定証の原本 (受験した日から 3 年以内のもの) を教務課に提出すること。

提出期日: 単位認定を希望する学期の授業最終日

5. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	202033NOE
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	
授業名 (Course Title)	イングリッシュ・チャレンジ I
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	—
担当者 (Instructor)	小林 順
単位数 (Credits)	
配当学年 (Eligible Year)	1234
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

英語は実質的に「世界共通語」の役割をもつようになって来ている。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっている。

本学ではすべての学生がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自らのキャリアビジョン中に明確に位置づけるように強く期待し、一方で様々な面で指導体制の充実を図っている。「イングリッシュ・チャレンジ I」及び「イングリッシュ・チャレンジ II」は、学生の英語運用能力の育成を目指して配置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度である。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

英語の標準テストで現状よりも高い成果をあげる。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

各自に合った方法を見いだすよう日頃から心がける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

長期的観点からの英語力向上のための学習方略を編み出すとともに、TOEIC などの標準テストについて過去問を研究し、回答方法に慣れるなど、短期的な戦術の向上も図る。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total)) 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

単位認定のために求められる成果の基準は以下の通り。

TOEIC 600 点以上 730 点未満 (TOEIC-IP 含む) の場合は「イングリッシュ・チャレンジ I」のみ、TOEIC 730 点以上 (TOEIC-IP 含む) 又は実用英語検定 準 1 級以上の場合は「イングリッシュ・チャレンジ I」及び「イングリッシュ・チャレンジ II」の単位が認定される。

単位認定を希望する者は、単位認定申請書 (教務委員会様式) 及び該当する検定試験の成績通知書の原本 (受験した日から 3 年以内のもの) を教務課へ提出すること。

提出期日: 単位認定を希望する学期の授業最終日

5. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	202034NOE
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	
授業名 (Course Title)	イングリッシュ・チャレンジ II
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	—
担当者 (Instructor)	小林 順
単位数 (Credits)	
配当学年 (Eligible Year)	1234
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

英語は実質的に「世界共通語」の役割をもつようになって来ている。特に政治経済、文化交流、そして情報メディアなど、国や地域の「枠」を越えて問題の把握あるいは問題の解決が求められる分野では特に共通言語が必要とされ、英語がますます重要な位置を占める言語となっている。本学ではすべての学生がこのような「言葉」をめぐる現実をよく理解し、英語運用能力育成を自ら

のキャリアビジョン中に明確に位置づけるように強く期待し、一方で様々な面で指導体制の充実を図っている。「イングリッシュ・チャレンジ I」及び「イングリッシュ・チャレンジ II」は、学生の英語運用能力の育成を目指して配置された科目のひとつで、第三者機関の行う英語の標準テストでの一定の成果に対し単位を認める制度である。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

英語の標準テストで自分の目指す目標レベルを設定し、それを達成するための戦略を練る。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

各自に合った方法を見いだすよう日頃から心がける。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

長期的観点からの英語力向上のための学習方略を編み出すとともに、TOEIC などの標準テストについて過去問を研究し、回答方法に慣れるなど、短期的な戦術の向上も図る。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))
時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

単位認定のために求められる成果の基準は以下の通り。

TOEIC 600 点以上 730 点未満 (TOEIC-IP 含む) の場合は「イングリッシュ・チャレンジ I」のみ、TOEIC 730 点以上 (TOEIC-IP 含む) 又は実用英語検定 準 1 級以上の場合には「イングリッシュ・チャレンジ I」及び「イングリッシュ・チャレンジ II」の単位が認定される。

単位認定を希望する者は、単位認定申請書 (教務委員会様式) 及び該当する検定試験の成績通知書の原本 (受験した日から 3 年以内のもの) を教務課へ提出すること。

提出期日: 単位認定を希望する学期の授業最終日

5. 留意事項 (Other Information)

講義コード (Course Code)	202080N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202080
授業名 (Course Title)	海外留学 I a
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	2 (後期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202081N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202081
授業名 (Course Title)	海外留学 I b
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	15
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	1
配当学年 (Eligible Year)	23 (前期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202082N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202082
授業名 (Course Title)	海外留学 II a
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	2 (後期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202083N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202083
授業名 (Course Title)	海外留学 II b
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	30
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	2
配当学年 (Eligible Year)	23 (前期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202084N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202084
授業名 (Course Title)	海外留学 III a
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	2 (後期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202085N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202085
授業名 (Course Title)	海外留学 III b
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	23 (前期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202086N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202086
授業名 (Course Title)	海外留学 III c
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	2 (後期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202087N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202087
授業名 (Course Title)	海外留学 III d
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	23 (前期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202088N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202088
授業名 (Course Title)	海外留学Ⅲ e
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	2 (後期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

講義コード (Course Code)	202089N1E
コースナンバー (Course Number) (科目読替 (Previous Course)を含む)	2000-202089
授業名 (Course Title)	海外留学Ⅲ f
N D 6 (Diploma Policy)	—
授業以外に必要な標準学修時間 (Standard Self-study hours)	60
担当者 (Instructor)	須川 いずみ
単位数 (Credits)	4
配当学年 (Eligible Year)	23 (前期集中)
前提科目 (Prerequisite)	
備考 (Note)	

1. 科目の教育目標 (Course Description)

本学の正規留学制度 (セメスター認定留学、米国姉妹大学留学、グローバル英語コース海外留学) により、留学先での環境の中で英語を活用して学修し、英語の活用能力を高めることを目標とする。

2. 教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

日本の環境では達成することの難しい語学 (英語) 力向上を目標とし、英語圏の大学で非日本語話者とインタラクションを行いながら語学 (英語) 専門教育を最大限に有効活用することが課題となる。狭義には、留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

3. 教育・学習の方法 (Course Methods)

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

・準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

留学先で参加する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイマージョンスペース等を積極的に利用し、英語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

・準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15 時間

4. 評価方法・評価基準 (Evaluation)

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

5. 留意事項 (Other Information)